経営支援通じ産業・地域活性化へ

―― パートナー機関の認証取得で体制整備 ――

武蔵野銀行は取引先企業の技術力向上や販路拡大につながる経営支援を強化している。中小企業の経営者らを対象に「ものづくり経営塾」を開いて技術と経営の視点から気づきを与える活動を展開するほか、経済産業省が掲げる「新市場創造型標準化制度」を活用して、取引先である朝日ラバーが考案した技術の日本産業規格（ＪＩＳ）化への橋渡しを担った。今後も経営支援活動を通じて、企業の成長戦略を支えながら、産業振興、地域活性化につなげていく。

武蔵野銀行 新市場創造型標準化制度を活用

武蔵野銀行は2013年4月に地域サポート部を立ち上げ、取引先のファイナンス（資金調達）にとどまらず、企業の競争力を強化し、地域経済の活性化をサポートする体制を整えた。これまでに、ものづくり経営塾と題した講座を13回開き、1回で60―70人、延べ800―900人に対して技術的、経営的な気づきを与えている。

これと並行して、経済産業省が掲げた新市場創造型標準化制度において、15年10月に「標準化活用支援パートナー機関」の認証を取得。地盤とする埼玉県にモノづくり企業が多いことをとらえて支援体制を整えた。

同制度の適用を視野に15年に「販路拡大のための標準化セミナー」を開いた。来場者160人ほどのうち、30数社から自社技術の標準化に向けた相談を受け、そのうちの1社が朝日ラバーだった。

朝日ラバーは自社開発した「照明器具用白色シリコーンインキ」をテーマとした規格を検討し、パートナー機関である武蔵野銀行を通じて日本規格協会と打ち合わせを実施。16年に新市場創造型標準化制度の活用が決まり、18年8月にＪＩＳに制定された。

「気づきやきっかけを与えるのが私たちの仕事。取引先企業がＪＩＳ化した後、商品化に結び付けるサポートも実施した。今回、朝日ラバーによるＪＩＳ制定後、県内企業とのビジネスマッチングを実施することで、製品の試作にとりかかると同時に、インターネット販売による市場展開も始まっている」（武蔵野銀行地域サポート部）という。

新市場創造型標準化制度は、中堅・中小企業が開発した技術に対して、ＪＩＳや国際標準化機構（ＩＳＯ）として新たに制定するために、経済産業省が創設した。ＪＩＳなどの規格化は、業界団体を通じて制定することが多いため、大手・有力企業の声は反映されやすいが、中小企業の声は届きにくい課題があった。

「中堅・中小製造業は、自社の技術を知的財産であることに気がついていない。入り口のところで背中を押すのが私たちの役目」（同）としている。

武蔵野銀行は標準化活用支援パートナー機関として、製造業のサポート役に徹する考え。今後、①技術力が高い埼玉県内の企業へ同制度を紹介②同制度の活用を望む企業と日本規格協会との橋渡し③規格化に取り組むにあたって、大学や研究機関の支援が必要になる場合には産学連携の紹介④規格制定後にビジネスマッチングなどといった事業展開上の支援―などを実施していく。

武蔵野銀行のフォローによるJIS取得までの流れ

2015年11月	2016年10月	2018年8月	現在
「販路拡大のための標準化セミナー」開催	「新市場創造型標準化制度」活用決定	日本産業規格（JIS）を取得	JIS取得後のフォロー
・朝日ラバーから武蔵野銀行、日本規格協会へ個別に相談を受ける	・調査書作成、経済産業省とのやり取りなどをフォロー ・調査会を含む約10回の会合へ同席	標準化活用支援パートナー機関として全国初のJIS制定	・企業の紹介 ・販路拡大、技術連携などの支援

技術力向上・販路拡大を支援

取引先の技術、ＪＩＳ化

武蔵野銀行 頭取
長堀 和正 氏

インタビュー

顧客と地域に寄り添う

「新たな価値を創造する地域NO1銀行」のビジョンを掲げる武蔵野銀行。お客さまと地域に寄り添う金融機関として事業展開する。昨今では直接の収益には結びつかないものの、経済産業省が掲げた施策で新市場創造型標準化制度のパートナー機関としての認証を取得、地域産業界を支える動きを見せている。6月末に同行トップに就任した長堀和正頭取に戦略を聞いた。長堀頭取は「地域経済のファシリテーター（調整役・進行役）として、お客さま同士をつないでいきたい」と考えを語った。

―地銀の置かれた状況は厳しさを増しています。

「金融機関は低金利や人口減少などを背景として、今まで以上に持続可能なビジネスモデルが問われている。こうした中で、当行は従来の金融仲介機能を発揮するとともに、課題解決型提案営業に注力していくことで、収益力向上を図っていきたい」

―施策として何を実施しますか。

「人材の差別化戦略を一段と進めていきたい。お客さまへのアンケートで、当行への満足度とともに期待することも明確になった。行員が専門的な知識を持つとともに、人間力も備えた『プロフェッショナル人材』を育てていく」

―人材育成の具体策は。

「20代から30代の若手行員を中心に、上平期で15人、年間30人程度、従来業務から切り離して集中的に営業能力を高めるほか、人間的な魅力を磨く教育を施している。必要とされるリベラルアーツを基に、お客さまと胸襟を開いて話ができる人材を育てたい。それに加え、人間的な魅力を高めることで、お客さまとお客さまをつなぐことができ、新たな価値を生み出せるようになる」

―新たな価値を生み出す施策の一つとして、経済産業省が打ち出したＪＩＳ化支援に取り組んでいます。

「埼玉県は、ものづくり企業の集積地であり、優れた技術が数多く存在する。一方でお客さまが保有する技術が世の中に知られていないことも少なくない。当行がファシリテーターとして、お客さまの持っている技術を掘り起こすとともに、ほかのお客さまや関連機関への橋渡しを行うことで企業の成長をサポートしていきたい。当行は、経産省の施策である新市場創造型標準化制度において、2015年10月に埼玉県内で初めて標準化活用支援パートナー機関になった。当行が同制度に沿って、お客さまを支援することにより、企業の価値をさらに高めるだけでなく、産業界の発展にも寄与できると考えている。」

―ＪＩＳ化支援は、地域価値創造の考え方に沿います。

「技術力が高いお客さまに同制度を紹介するのをきっかけに、日本規格協会への橋渡しや、大学などとの産学連携を紹介・斡旋することが考えられる。実際に2015年11月には経産省と連携して、セミナーを開催し、同制度に関心がある企業に日本規格協会への橋渡しを実施した。今回ＪＩＳを取得した朝日ラバーもその1社。高い技術力を持つ朝日ラバーに、ＪＩＳの取得の他、県内企業とのビジネスマッチングにより、ＪＩＳ製品の市場展開のサポートもさせていただいた。こうした価値創出の取り組みが成果となるには時間がかかるが、当行は、金融にとどまらない多面的なサポートをすることで、企業の成長と地域のさらなる発展に貢献していきたい」

顧客同士つなぐファシリテーターに

メッセージ

新技術・製品 標準化案件を発掘・支援

経済産業省　産業技術環境局基準認証政策課長　**宮崎 貴哉 氏**

開発された技術や製品を社会に普及させるには、その性能や仕様を客観的に評価できる指標が必要となりますが、新しい技術、企業固有のとがった技術であるほど客観的な評価方法等の開発が間に合わず、結果的に市場の創出や拡大が進まないおそれがあります。

「新市場創造型標準化制度」は、優れた技術・製品について国際標準や日本産業規格（ＪＩＳ）の制定を支援することを目的とした制度です。

「照明器具用白色シリコーンインキ」は、優れた耐熱性・耐光性により照明機器の劣化を防ぐ効果を持つ優れた製品ですが、新規性や優位性をＰＲするための客観的な評価指標等がないという悩みをお持ちでした。

今回、朝日ラバー様と武蔵野銀行様が連携してこの制度を利用いただき、品質および試験方法のＪＩＳ化を図った結果、関心企業からの問い合わせ増につながるなど新しい市場の創造、獲得の可能性が高まったと伺っています。

このように、標準化は企業の皆さまの新技術の開発、創意工夫を実際の市場での信頼につなげる一つの手段としても活用いただくことができます。

経済産業省としても、「新市場創造型標準化制度」を含め、標準化活動支援パートナー機関の皆さまとも連携して新技術・製品の社会実装につながる標準化案件の発掘と支援に一層取り組んでまいります。ご関心をお持ちの企業の皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。

支援事例

朝日ラバー

白色シリコーンインキ　**反射率95％以上**

基本的品質制定　**試験・検査法もＪＩＳ化**

ＪＩＳを取得した白色シリコーンインキ

朝日ラバーが開発した白色シリコーンインキは、発光ダイオード（ＬＥＤ）照明の発光効率を高められる。耐熱性や耐紫外線（ＵＶ）性能に優れた反射塗料で、反射率は95％以上。2018年8月に「照明器具用白色シリコーンインキ塗膜」として、日本産業規格（ＪＩＳ）に制定された。

ＪＩＳは、ＬＥＤ照明器具に用いる部材の白色シリコーンインキについての外観や反射率、白色度、密着性などといった基本的な品質について制定した。また、塗膜の耐久性や燃焼時の安全性などの試験方法、検査方法などもＪＩＳとして標準化した。ＬＥＤの省エネルギーや長寿命化に貢献する。

朝日ラバーは2010年に白色シリコーンインキを業界で初めて開発・製品化した。同インキは主にＬＥＤ照明器具などのプリント基板に塗布する反射材として使用されており、従来の樹脂材料に比べて耐紫外線性や耐熱性に優れている。

こうした背景から2年ほど前に、経済産業省が策定した「新市場創造型標準化制度」を利用して、同インキのＪＩＳ化に着手。標準化活用支援パートナー機関の武蔵野銀行とともに原案作成から参画し、標準化に取り組んだ経緯がある。

朝日ラバーの渡辺陽一郎社長は「当社の技術が標準化されることで、訴求しやすくなった。まだＪＩＳ化を成し遂げ、やっとスタートラインに立った段階。この成果をモノにしていく」とし、これを機に製品群を拡充した。

反射材のほか、インキを塗布したフィルムや鋼板も販売する。今後はＪＩＳ化の橋渡しをしてくれた武蔵野銀行とともに販路拡大に力を入れていく方針。

ゆくゆくは「国際標準化機構（ＩＳＯ）規格にも挑戦したい」（渡辺社長）と抱負を話す。

武蔵野銀行
More For You
もっと、街・暮らし・笑顔のために